



テロ対策ネットワーク岐阜通信

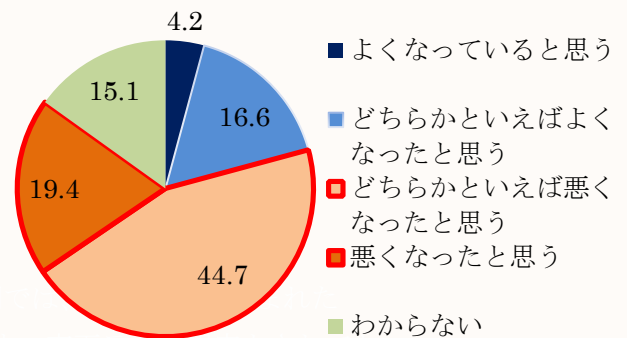
車両テロから身を守るために

2008(平成20)年6月、秋葉原(東京)で、**レンタルしたトラック**を運転して**歩行者天国**に突入、通行人をはね、ナイフで刺す等して、7人を殺害、10人に重軽傷を負わせた事件をきっかけに、不特定多数の人々が集まる場所の安全確保、防犯・安全への対策が進められました。

一方、警察庁が、昨年11月に実施したアンケート調査で「ここ10年間で日本の治安が悪化した」と回答した人は6割超に上りました。

ここ10年間で、日本の治安はよくなったと思いますか。

アンケート結果 (数字は%)



(警察庁「令和3年の犯罪情勢」より)

その内**8割近く**が「**無差別殺傷事件**」

を理由にあげています。

※ 警察庁「令和3年の犯罪情勢」参照

もし自分が、車両テロの発生現場にいたら…

身の安全をどのように守ればよいのか？

米国等の政府機関では、テロの頻発を受けて、遭遇した場合の対処マニュアルが作成されています。車両テロの想定もされており、具体的な対処方法を示していますので、参考にご紹介します。

米国 テロ発生場所の傾向 (ソフトターゲット)

※ 不特定多数が入りやすい、警備が手薄になりがちで攻撃しやすい標的

- ・ 公共の場で行われる注目を集めるイベント (スポーツ競技会、政治集会、街頭デモ、休日のイベント、祝賀行事等)
- ・ ホテル、クラブ、レストラン、礼拝場所
- ・ 学校、公園
- ・ ショッピングモール、市場、観光地
- ・ 公共交通機関、空港

ご自身、ご家族が、日常生活で利用する場所・施設はありますか？

米国 車両テロに遭遇したときの対処法

- ・ 最も近い安全な場所に走って逃げる。
- ・ 転倒した場合は、身体を丸めて防御態勢を取り、できるだけ早く起き上がり、車両にひかれないようにする。
- ・ すぐ逃げることができない場合には、物陰など犯人から目視されない場所を探す。
- ・ 911(緊急電話番号、日本では110、119番)に電話をかけるとともに、次の攻撃に警戒する。
- ・ 応急手当は安全な場合に行う。他者を助ける場合は周囲に警戒する。

※ 米国国土安全保障省(U. S. Department of Homeland Security)
「Vehicle Ramming Security Awareness for Soft Targets and Crowded Places」(ソフトターゲット及び密集した場所に対するセキュリティ意識) 2018年11月30日引用

私たちが、日々の生活を送る中でも、

「もし〇〇が起きたら…その時は…」

**と想定して、対処イメージをする習慣を身につける
ことが大切です。**

不審者・不審物を見かけたときは 110番